



こーひーぶれいく

茨城空港からアジア核医学技術学会 (The Asian Society of Nuclear Medicine Technology) へ行く

對間 博之

Tsushima Hiroyuki

2018年、沖縄で開催された日本核医学会と日本核医学技術学会の合同学術大会に参加するため、初めて茨城空港を利用しました。茨城空港は、茨城県のはぼ中央、霞ヶ浦の北部にある首都圏3番目の空港です。空港法による正式な分類は、共用空港ということになるようで、航空自衛隊の百里飛行場と共用されています。開港は、2010年3月11日と比較的新しく非常に全体的にきれいな空港ですが、開港1周年となる2011年3月11日に東日本大震災によりターミナルビルが被災し、全路線が欠航となるなど、波乱万丈な空港でもあります(筆者もこの東日本大震災の3日後に大阪から茨城に引っ越してきたため、空港同様、なかなかの波乱万丈でした)。

茨城空港は、茨城県が運営に参画しているため県職員である筆者としては、ぜひ皆さんに利用をしていただきたいと思っています。そこで、これまで利用しなかったことを棚に上げ、いくつか空港の魅力を紹介します。まず、空港の施設利用料が安い。特筆すべきは駐車場料金で、基本的に旅行期間中は無料なのです。そのため、先日の学会の際も福島県や栃木県から茨城空港を利用されている学会関係者も見られました。次に、空港のコンパクトさです。ターミナルビルの横幅は、羽田空港第1ビルの約1/8であり、手荷物を預けて、チェックイン、セキュリティチェック、搭乗口まで数十mと超楽ちんです。飛行機は搭乗口の外、すぐに駐機しており、ボーディングブリッジ(搭乗用の渡り廊下みたいな設備)すら必要ありません。

現在、茨城空港からは定期便として、国内は、札幌、神戸、福岡、那覇に就航しています。また、海



写真 第8回ASNMT学術大会(ソウル, 2018)
(ASNMT HP: <http://www.asnmt.org/>)

外は、ソウル、台北、上海の各都市に定期便が就航しています。これら海外の就航都市の案内板を見て、たぶん、筆者一人でしょうが、核医学技術の世界と何かの縁を感じていました。

それは、アジア核医学技術学会(The Asian Society of Nuclear Medicine Technology, ASNMT)の成り立ちと関係します。

ASNMTは、韓国、台湾の核医学技術に関する学会と日本核医学技術学会が長年にわたって培ってきた国際交流活動をベースにして、アジアにおける核医学技術の向上を目的に2010年に構想されました。そして、翌2011年に第31回日本核医学技術学会総会学術大会にあわせ、第1回となるASNMT学術大会が茨城県つくば市で開催されたのです。まさに、東日本大震災後の混乱の中、茨城空港と同時期に、茨城の地で新たなスタートを切ったのです。

その後、韓国、台湾、日本が持ち回りで2016年までに計6回の大会が開催されました。更に、2017年からは中国の核医学技術者も参画し、更なる発展が期待されています。今回は、2019年5月に上海での開催が予定されていますので、ぜひ、この機会に茨城空港から参加されては如何でしょうか。

なお、ASNMTの事務局は日本(大阪)にあります。今後も日本を起点として、茨城空港の就航都市にとどまらず他の国々との連携を深めることで、核医学技術の向上に、日本の診療放射線技師をはじめとした技術者や研究者が貢献できればと考えています。

(茨城県立医療大学)